



国語科と道徳科の研究授業について

9月17日(水)に1年1組で、国語科「けんかした山」の研究授業を行いました。1年生の子どもたちにとっては、初めての研究授業ですので、参観日とは違った緊張感の中で学習をしました。

「けんかした山」は背比べをしていつもけんかばかりしている2つの山とそこで生活をしている動物やお日さま、お月さまなどが登場する物語です。今回の授業では、けんかをした山が、誰にどんな感謝の手紙を書くのか、ということが目標です。子どもたちは、音読を通してこれまでの学習を振り返り、山になったつもりで手紙を書く相手や内容を考えました。1年1組では、「お日さま」や「くろいくも」に感謝の手紙を書くという子が多かったのですが、友達と情報交換をすることで、だれに感謝してもよいことに気付いていました。



音読を家庭学習で取り組んでいるので、その力が物語を読み取る力にもよい影響を与えていました。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

9月19日(金)には4年2組で、道徳科「わたしが見つけた小さな幸せ」の研究授業を行いました。これは、初任者研修の一環として行われた授業でした。

「わたしが見つけた小さな幸せ」は、病気になった主人公が、元気なときの日常には小さな幸せがあふれていたことに気づき、命の尊さや健康の大切さを実感するというものです。子どもたちは、主人公の気持ちを考えながら、自分自身の経験などを基にして、「命がある幸せ」について考えました。「学校で友達と学習をしたり運動をしたりすること」「家族と一緒に楽しく過ごせること」「おいしく食事が食べられること」など、普段の生活の中にある小さな幸せを、友達同士で確かめ合ったり共感したりしていました。

「命がある幸せ」は、日常ではなかなか気づきにくいものです。特に元気に過ごしているときには余計にそうなる傾向にあります。道徳科の学習の中で「命の尊さ」を「幸せ」という視点から考えることで、「自他を大切にする」ことができるのではないかと思います。

研究授業では「きらりタイム」といった小集団での活動を設定したり、ICTを活用したりしながら、教員の資質向上、個々の授業力の育成を図っています。このように校内で研修を進めていることを、ご理解ください。

